

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3322		
科目名	危機管理特殊講義2（国際化と外国人対策）		
担当教員	瀧川 修吾, 金山 泰介, 宣 元錫, 鈴木 秀洋		
対象学年	3年, 4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 1		
講義室	1203	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（55%） I1 理解・分析と読解（15%） I2 量的分析（15%） I3 情報分析（15%）		
教員の実務経験	高宅茂先生：1981年に法務省に入省し、1993年から1996年までの外務省に出向した期間を除き法務省に在職し、かつ、そのほとんどの期間、出入国管理、外国人の在留管理及び難民の認定・庇護に関する実務に従事した経験を基に、第5回～第7回の講義を担当します（定年退職をされたため、後任が見付かるまでは、共著者の瀧川が担当します）。 金山泰介先生：警察庁、都道府県警察、内閣官房、在タイ日本大使館等34年間の実務経験を基に、第10回～第11回の講義を担当します。） 鈴木秀洋先生：東京23区において、20年以上公務員として、法務（立法、訟務）、人事、監査、秘書（総務課長補佐）、危機管理課長、男女（ジェンダー）課長、児童福祉（子ども家庭支援センター所長）等の実務経験を基に、第12回～第14回の講義を担当します。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 完成期		
科目概要・キーワード	今後、日本の国際化が、かつての国家を主体とした政治・外交を軸とするものから、企業や民間団体、個人をも主体とした経済や文化、社会のあらゆる領域にわたる多元的かつ地球規模のもの（いわゆるグローバル化）へと、より一層と変容していく中で、日本にいる外国人の状況や、これをとりまく法律・制度等について理解を深めておくことは、危機管理を学ぶ者にとって必須といえます。そこで、本講義では、世界の移民・難民問題や外国人政策にまつわる過去と現在を俯瞰しつつ、現在の、そしてこれからの日本の社会が直面することになる外国人を取り巻く様々な問題とその対応につき、危機管理を軸に多角的な視点から教授します。なお、本講義は、複数の教員がそれぞれの専門知識を持ち寄って構成されるオムニバス講義です。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。		
授業の趣旨	■副題 グローバル化と日本の外国人政策 ■授業の目的		

	日本における国際化の意義や趨勢，在留外国人を取り巻く諸問題や制度について理解を深め，向後の外国人政策のあるべき姿について主体的に考察するための学識を身に付けることを目的とします。 ■授業のポイント まずは移民・難民問題や移民政策，民族運動や人種にまつわる諸問題の歴史を広範に学び，現在の日本が直面しているグローバル化の諸相につき基礎的な知識を修得します。つぎに，出入国管理関係の法制について学び，日本が採っている政策の現状と課題などについて学びます。そして，現今の日本経済と外国人との関係にまつわる諸問題について学び，実際に発生している外国人による犯罪とその対策について学びます。最後に，外国人を日本の社会に受け入れるにあたり，どのような考え方があり，かつ実践されているのかにつき学び，地方自治体の事例等を学びます。						
総合到達目標	■本講義を通して学んだ知識をもとに，今後，日本においてもさらなる変容が予想される国際化に付随して実際に起こりうる様々な危機を身近に捉え，これを調査・分析の上，予測し，その発生を抑止する方策や，発生した際の適切な対応および手順等につき，主体的に考察し，かつ具体的に提言・実践できる能力を修得する。 ・日本における外国人の受入れや在留に関わる法制・政策について説明できる。 ・日本経済と外国人の関係を，国内の労働市場や雇用政策の点から論じることができる。 ・日本における外国人犯罪とその対策について説明できる。 ・外国人の社会的受容の在り方や地方自治体の外国人政策について説明できる。，具体的に提言・実践できる。 ・移民と移民政策の歴史や，グローバル化する日本の状況について説明できる。 ・日本における外国人の受入れや在留に関わる法制・政策について説明できる。 ・日本経済と外国人の関係を，国内の労働市場や雇用政策の点から論じることができる。 ・日本における外国人犯罪とその対策について説明できる。 ・外国人の社会的受容の在り方や地方自治体の外国人政策について説明できる。						
成績評価方法	■評価方法は，それぞれの担当教員が適用ルーブリック（E1・I1・I2・I3）に対応する形で，受講生の人数や習熟度に応じて，以下①から⑤のいずれかの評価方法の1つ，ないし複数を組み合わせ，決定します（下記％は暫定的な数値）。 ①期末試験（20％）・②数回の小テスト（20％）・③レポート（20％）・④ノート点（20％）・⑤発言点（20％） 具体的な評価方法については開講時（講義初回）に周知しますが，担当教員5人の持ち点は20点で，これを合算します。 （フィードバックの方法） この点についても，オムニバス講義ゆえに担当教員ごとに異なるため，開講時に周知することになります。オムニバス講義ゆえの不便が生じないようにするため，瀧川が総合窓口となり，毎回リアクションペーパーを配布するので，フィードバックして欲しい事柄につき，積極的に質問や意見を寄せて下さい。例えば，各教員の担当最後回に実施される①期末試験や③レポートなどについても，瀧川が仲介者となることで，適宜，フィードバックをします。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	本講義は，5人の教員がそれぞれの担当回につき，個別に成績評価を行い，これを合算して最終評価を確定するオムニバス講義です。それゆえ，1，2回であっても遅刻や早退，欠席をすると成績評価に直結するような情報を聞き逃すことにもなりかねません。よって，病気や慶弔等で，やむを得ず講義を欠席等する場合は，各自でその旨を担当教員（不可能な場合は瀧川）に報告し，代替の課題を課してもらうといったケースも通常の講義より多くなることが想定されます。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス【担当者：複数教員】 ②授業概要 授業のテーマや内容，使用教材，スケジュール，成績評価の方法について説明を行うとともに講師を紹介します。但し，受講生の人数や習熟度によってはガイダンスを簡略化して講義を始め，空いた時間を小テストやグループワーク等に充てる場合もあります。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） シラバスに目を通し本講義の学習内容を把握し，これまで学んだ関連する知識について整理をしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返り，授業の目的と到達目標等を確認しておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 移民と移民政策の歴史①（世界）【担当者：瀧川】 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス【担当者：複数教員】 ②授業概要 授業のテーマや内容，使用教材，スケジュール，成績評価の方法について説明を行うとともに講師を紹介します。但し，受講生の人数や習熟度によってはガイダンスを簡略化して講義を始め，空いた時間を小テストやグループワーク等に充てる場合もあります。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） シラバスに目を通し本講義の学習内容を把握し，これまで学んだ関連する知識について整理をしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返り，授業の目的と到達目標等を確認しておく。	2	①授業テーマ 移民と移民政策の歴史①（世界）【担当者：瀧川】
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス【担当者：複数教員】 ②授業概要 授業のテーマや内容，使用教材，スケジュール，成績評価の方法について説明を行うとともに講師を紹介します。但し，受講生の人数や習熟度によってはガイダンスを簡略化して講義を始め，空いた時間を小テストやグループワーク等に充てる場合もあります。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） シラバスに目を通し本講義の学習内容を把握し，これまで学んだ関連する知識について整理をしておく。 ④復習（120分） 授業を振り返り，授業の目的と到達目標等を確認しておく。						
2	①授業テーマ 移民と移民政策の歴史①（世界）【担当者：瀧川】						

	②授業概要 アフリカ東部で誕生した人類は、以来移動を繰り返し、地球中に拡散しました。文化や慣習（一次的社会規範）が異なる人々が大量に移り住むとどのような現象が起きるのか。世界における移民問題や移民政策、民族運動や人種にまつわる諸問題の歴史を広範に学ぶことで、その基本的な構造を理解することを目的とし、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） ブリタニカなどの詳細な辞書やICTを用い、民族とナショナリズムについて調べ、メモを持参する（授業後に回収）。 ④復習（120分） 講義で触れた諸問題の中から任意に1つを選び、各自で調査し、レポートにまとめ、第4回の終了後に提出する。
3	①授業テーマ 移民と移民政策の歴史②（日本）【担当者：瀧川】 ②授業概要 一見すると馴染みがない、日本における移民と移民政策の歴史について解説します。具体的には、まずもって「日本人」がどのようにして形成され、世界の国々といかに関わってきたのか、そして就中日本における移民はいかなる社会的背景のもと、どう展開されたのかについて広範な知識を修得することを目的とし、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 日本史事典や年表等を参照し、国際社会との関わりにおいて重要と思われる出来事を列挙したメモを持参する。 ④復習（120分） 前回から作成中のレポート課題において、日本との関連性の有無について考察し、反映させる。
4	①授業テーマ グローバリゼーションと日本（変容する政治・経済・社会）【担当者：瀧川】 ②授業概要 第2回からの講義内容を踏まえ、現在の日本が直面しているグローバル化の諸相につき、多角的に解説します。具体的には、国際社会における日本の政治・外交のあり方や、これを取りまく経済の動向、企業やNPOの活動などについて広範な知識を修得することを目的とし、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 日頃から時事問題に関心を持つことが望ましいので、各自、ここ1年間で一番のビッグニュースを一つ選定し、その概要と重要と考える理由につき、簡潔にまとめてくる。 ④復習（120分） 広範囲にわたった講義内容をしっかり整理し、自分の言葉で説明できるようにノートや資料を整理する。
5	①授業テーマ 外国人の受入れに係る法制度【担当者：高宅先生に代わり瀧川】 ②授業概要 留資格制度について学び、外国人の受入れに関する我が国の政策とその実施のための法制度的枠組みを理解します。併せて、国籍制度について学び、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前に教科書に目を通しておき、疑問点などを整理しておく。 ④復習（120分） 講義で学んだことを整理するとともに、参考書『入管法大全I 逐条解説』の第2条の2の解説、参考書『入管法大全II 在留資格』の第1章などを読み、在留資格制度とその役割についてレポートを作成する（第7回に提出）。
6	①授業テーマ 外国人の在留に係る法制度【担当者：高宅先生にかわり瀧川】 ②授業概要 外国人の在留管理制度及び外国人住民に係る住民基本台帳制度について学び、外国人の在留に係る法制度的枠組みについて理解します。併せて、難民の庇護について学び、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分）

	第5次出入国管理基本計画のⅠⅠ（外国人の入国・在留等をめぐる状況）を読んだ上で参加する。 ④復習（120分）：講義ノートを整理する。
7	①授業テーマ 外国人の受入に係る政策【担当者：高宅先生に代わり瀧川】 ②授業概要 外国人の受入に関する政策とその実施の現状について学びその今後の展望について検討するとともに、国民の安全と安心を確保しつつ日本人と外国人が共生する社会を実現していくための方策について長期的視点から考察し、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 第5次出入国管理基本計画のⅢⅢ（出入国管理行政の主要な課題と今後の方針）を読んだ上で参加する。 ④復習（120分） 第5回から第7回までの講義ノートを整理する。
8	①授業テーマ 日本経済と外国人①（国の雇用政策）【担当者：宣】 ②授業概要 外国人の雇用・就労に係る政策について学びます。とくに歴史的かつ法制度的な側面から当該政策を検討し、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前に指定する参考文献や資料に目を通しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを整理する。
9	①授業テーマ 日本経済と外国人②（日本国内の労働市場）【担当者：宣】 ②授業概要 日本の経済・産業や労働市場における外国人の位置づけについて学びます。また、外国人雇用の課題や企業の戦略について理解を深め、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前に指定する参考文献や資料に目を通しておく。 ④復習（120分） 講義ノートを整理する。
10	①授業テーマ 日本における外国人犯罪とその対策①（犯罪情勢の推移と現状）【担当者：金山（実務経験を反映）】 ②授業概要 我が国における国際化の急速な進展は、来日外国人犯罪の急増という負の部分をもたらしました。本講義では、担当者の実務経験に基づき来日外国人犯罪を中心とする外国人犯罪情勢の推移及びその特徴について説明し、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前配布資料を読み込んでおく。 ④復習（120分） 参考文献を参照し講義ノートを整理する。

11	①授業テーマ 日本における外国人犯罪とその対策②（検挙抑止対策と今後の課題）【担当者：金山（実務経験を反映）】 ②授業概要 前回講義を踏まえ、担当者の実務経験に基づき来日外国人犯罪の検挙抑止対策を説明するとともに、多文化共生の中で犯罪を減少させていくための課題を検討し、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前配布資料を読み込んでおく。 ④復習（120分） 参考文献を参照し講義ノートを整理する。
12	①授業テーマ 外国人の社会的受容（多文化主義と多文化共生）【担当者：鈴木（実務経験を反映）】 ②授業概要 差別を禁止するという観点からの基礎自治体（東京23区）における職員研修内容を紹介し、公務員として要求される最低限の外国人次対応及びその位置付けについても学び（LGBT課題含む）、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前配布資料を読み、意見・感想をまとめておく。 ④復習（120分） 事前配布資料に講義を踏まえ講義ノートを整理する。
13	①授業テーマ 地方自治体の外国人政策①【担当者：鈴木（実務経験を反映）】 ②授業概要 自治体の国際化事業・交流事業又は国際貢献策を紹介し、検討し（協定内容・具体的事業としてUNWomen日本事務所設置など）、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） いくつかの自治体の国際化・交流事業等について調べておく。 ④復習（120分） 自らの調査に講義を踏まえ講義ノートを整理する。
14	①授業テーマ 地方自治体の外国人政策②【担当者：鈴木（実務経験を反映）】 ②授業概要 自治体の通常業務の中での外国人次対応・対応（保育園、児童虐待対応など）について、具体的事例を紹介しながら個別の課題を検討し、学識・専門技能を深め、理解力・分析力を修得します。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 事前配布資料を読んでおく。 ④復習（120分） 第12回～第14回で学んだ自治体における外国人次対応について、課題・展望をA4：1枚にまとめて提出する（箇条書き可）。
15	①授業テーマ 総括【担当者：複数教員】 ②授業概要 14回の授業での学びの総括を行うと共に、受講生の人数等の状況に応じ、学生中心のグループワークか、もしくは複数の教員と受講生との間のパネルディスカッション講義を行います。（E1・I1・I2・I3）総合到達目標を意識して学んだことを自分の言葉で説明できるようになる。 ③予習（120分） 14回の講義を振り返り、資料やノートを整理しつつ、不明な点や新たな疑問点等をまとめたメモを持参する。 ④復習（120分） 授業全体を振り返り、ここで学んだ内容を卒業論文や志望する進路等において活用できるように整理しておく。

関連科目	「危機管理特殊講義 1 (RMGT3321)」・「危機管理特殊講義 3 (RMGT3323)」と関連します。
教科書	第2回から第7回に関しては、高宅茂・瀧川修吾『外国人の受入れと日本社会』（日本加除出版，2018年）を，第12回から第14回に関しては，鈴木秀洋『社会的弱者のための自治体法務』（第一法規，2021年）を使用します。
参考書・参考URL	第5回から第7回に関しては，多賀谷一照・高宅茂『入管法大全I 逐条解説』（日本加除出版株式会社），多賀谷一照・高宅茂『入管法大全II 在留資格』（同）を，第12回から第14回に関しては，鈴木秀洋『子を、親を、児童虐待から救う』（公職研，2019年）を，他の回については講義の中で適宜，紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 複数教員が担当するオムニバス講義のため，原則，瀧川（takigawa.shugo@nihon-u.ac.jp）を窓口とします。 ■オフィスアワー オムニバス講義であるため，開講時に周知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%、パブリックセキュリティ40%、グローバルセキュリティ40%、情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学60%、法学40%

